

企業の注目IR情報

1 中高生への浴衣着付け出前授業できものを未来へつなげる

中高生を対象として浴衣の着付け体験を通して和装に触れてもらい、きもの文化に関心を惹き付けるためのプログラムを無償で提供。次世代への和装文化継承の想いが込められている。

2 幻の国産蚕「太平長安」の復刻で国内の養蚕業を支援

いまでは生産されなくなってしまった国産蚕「太平長安」を現代に復刻させるプロジェクトを実施。伝統技術や文化の継承に加え、国内の養蚕業を支援するサステナビリティ活動の一環だ。

3 株主ファーストの観点から四半期配当制度を導入

営業成績をいち早く株主に還元し、その実績を実感してもらえるよう四半期配当制度を導入。株式の魅力アップによって、新規の投資家獲得を狙う施策のひとつだ。

PROFILE

代表取締役社長
どうめん よしお
道面 義雄氏

広島県呉市生まれの呉市育ち。2008年、日本和装ホールディングス株式会社に入社。広島局の営業職から広島局局長、大阪局局長、営業部部长、取締役、副社長と歴任。2018年に代表取締役社長就任。ブログやSNS、動画配信なども行っており、きもの魅力や同社の取り組みなども発信している。



教えて、伝えて、流通を促す
それが、着付け教室のはじまり

「なぜ、きものが売れないんだろう？」そんなひとつの疑問が、日本和装ホールディングス（以下日本和装）躍進のルーツだった。同社の創業は1984年。舶来品の輸入販売を経て1986年に有限会社テリコ（現日本和装）を設立。お付き合いのあった呉服屋との会話の中で冒頭の疑問に辿り着き、そのひとつの答えとして導き出したのが、「自身できものが着られない人が多いことだった。そこで、ひとりでも多くの人にきものを着てほしい。そして和装文化を次世代に繋ぎたいという想いから1997年にスタートしたが、同社の主軸事業となる受講料無料の「きもの着付け教室」だ。「教えて」「伝えて」「流通を促す」。教室を通して、きものや帯などの和装品の販売を仲介するといったビジネスモデルを生み出したことで今では22万人もの卒業生を輩出している。



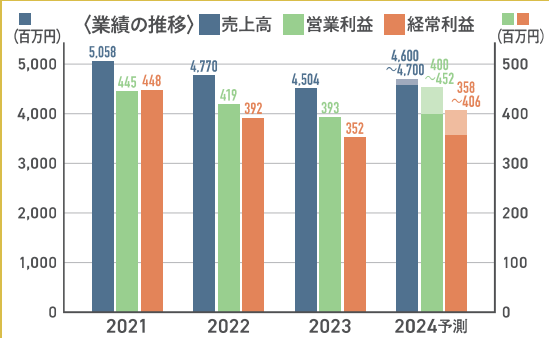
※2024年イメージキャラクターの富永愛さん

**きものを未来へ受け継ぐために
若年層へのアプローチにも挑戦**

無料着付け教室を開講し、受講者ときもの生産者の間を仲介し、生産者からの販売仲介手数料を主な収益の柱とする手法は、和装業界でも線を画す独自のビジネスモデル。着付けの学校でもなく、小売業でもない。販売仲介業のみを担うことで「在庫や、製造設備を持たない」といった財務的負担が軽く、時代や流行などの変化への対応も素早く行えるのも同社の大きな強みだ。

そんな同社の顧客層は、40代から60代が大半を占め、続いて70代と30代が続くといった構造。20代をはじめとする将来的な顧客へのアプローチといった課題に対し、取り組んだのがEC事業だ。ECサイト「KAERUWA（カエルワ）」では、それまで同社が扱ってこなかった、比較的安価な製品や自宅で洗えるといった製品を扱うことで新規顧客の獲得を目指す。7月には新ブランドのオリジナル製品をリリース。今後も産地同士のコラボなどを展開し、モノだ

DATA



株価 **300円** 配当利回り **4.33%**

POINT 四半期配当制度を導入することで株主へ経営成績をいち早く還元。それによって、株式の魅力高め、新規株主の獲得を図る。4%を超える高い利回りも大きな魅力。

「和の総合サイト」を目指したいとしている。
**幻の蚕を現代に復刻する
サステナビリティ活動にも注力**
国内の養蚕業支援に加え、きものという日本独自の文化や伝統技術を未来に継承したい。そんな想いとサステナビリティ活動の「環」として始まった「Reborn The Silk プロジェクト」。生産性の観点で現在では生産されなくなってしまった幻の国産蚕「太平長安」を復刻させるといったこのプロジェクト。約1年間にわたって蚕の飼育から製糸、製織、染色を経て反物を作り、きものや帯に仕立てた製品は「ARCS（アルクシルク）」（商標登録出願中）というブランド名で好評販売中。同プロジェクトは引き続き今年も進行している。

日本和装ホールディングス株式会社

TEL 03-5843-0097

●住所 / 東京都港区六本木6-2-31 六本木ヒルズノースタワー5F

詳しいIRデータは
コチラ

